

1. 学生の基本特性

女子学生が、第二部は6割、短期大学部は半数強、通信教育部は半数。

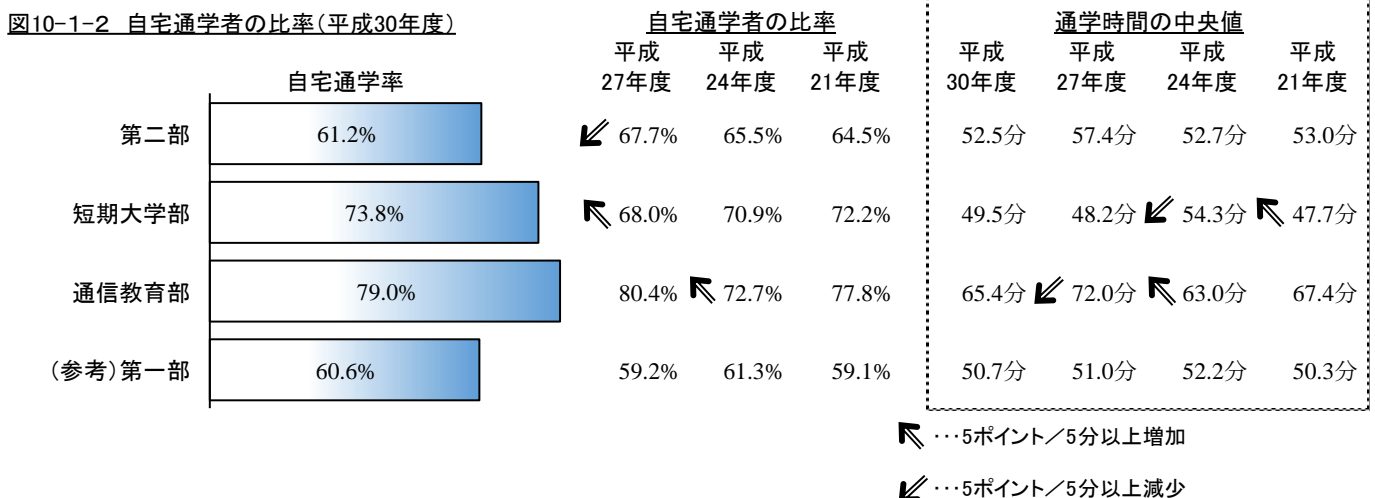
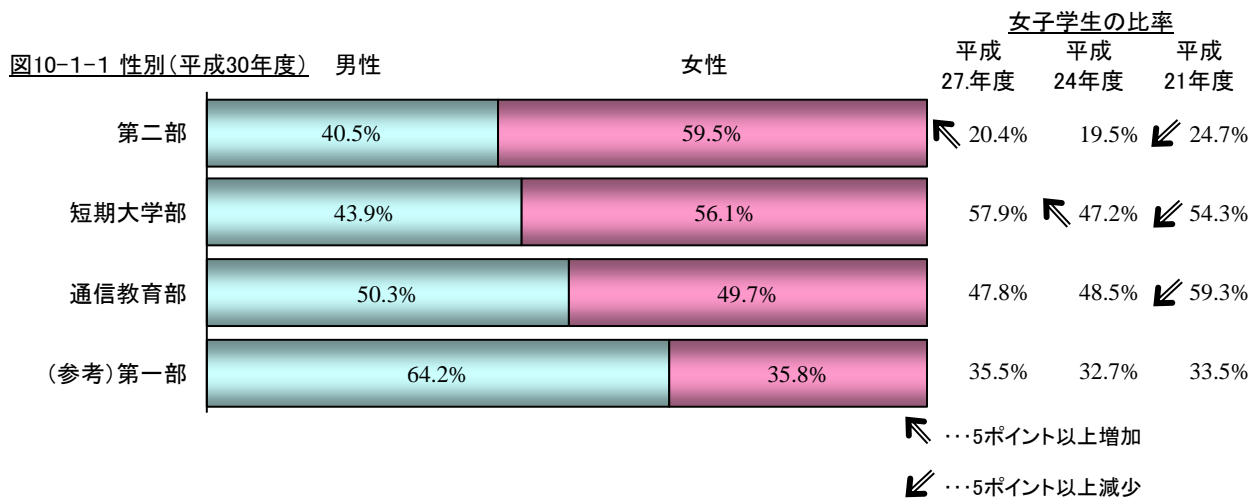
第一部の学生より、自宅通学者の比率が高い傾向。

第二部は経済学部第二部の廃止、短期大学部は学科の学生募集停止により、経年変化。

第二部は法学部第二部、短期大学部は三島キャンパス・船橋キャンパス、通信教育部は昼間スクーリングの各学生が調査対象となっています。

女子学生の比率は第二部で59.5%、短期大学部で56.1%、通信教育部では49.7%となっています。第二部は、平成28年に経済学部が廃止され法学部第二部のみとなったことにより、女子学生が3年前(平成27年度)より39.1ポイント増えています。短期大学部は、平成26年度末に生物資源学科(湘南キャンパス)の学生募集を停止しており、女子学生比率が平成27年度に3年前より10.7ポイント増加しましたが、平成30年度は3年前より1.8ポイント減にとどまっています。

自宅通学者の比率は、第二部は61.2%、短期大学部は73.8%、通信教育部は79.0%と、いずれも第一部より高くなっています。通学時間の中央値を第一部の学生と比較すると、第二部で52.5分と若干長め、短期大学部(49.5分)はほぼ同じ、通信教育部の昼間スクーリング受講生(65.4分)は遠方からの通学者が多いようであり長くなっています。平成27年度と比較すると、第二部の学生は自宅通学比率が6.5ポイント減少し、通学時間が約5分短くなっており、短期大学部の学生は自宅通学比率が5.8ポイント増加し、通学時間もわずかに増加しています(1.3分増)。



2. 勉学態度

『比較的まじめな勉学態度の学生』の比率は、通信教育部、短期大学部、第二部とも第一部を上回り、第二部はこの6年間で回復。

勉学態度を見ると、「教科書・ノートを中心に必要単位を修得」している学生が短期大学部で64.5%、通信教育部で63.6%と第一部の学生と比較して高くなっています。通信教育部では、「授業や自主的テーマで積極的に」している学生が16.8%と高めです。「授業や自主的テーマで積極的に」と「教科書・ノート中心」を合計した『比較的まじめな勉学態度』の学生は通信教育部で80.4%、短期大学部で74.8%、第二部で71.9%と第一部（68.8%）を上回っています。

『比較的まじめな勉学態度』の学生の比率の経年変化を見ると、第二部では昭和63年度の44.6%から平成21年度の76.6%まで年々増加、平成24年度は58.4%と大幅減少しましたが、平成27年度から増加に転じ、平成30年度は6年前より13.5ポイント増となっています。短期大学部では平成6年度までの6年間に21.0ポイント増、平成15年度までの3年間に9.7ポイント増と2度短期間に増加、平成15年度以降は75%前後を維持しています。通信教育部は平成12年度までの6年間で21.1ポイントの大幅増、平成15年度以降は約80%から90%の間で推移しています。

図10-2-1 勉学態度(平成30年度)

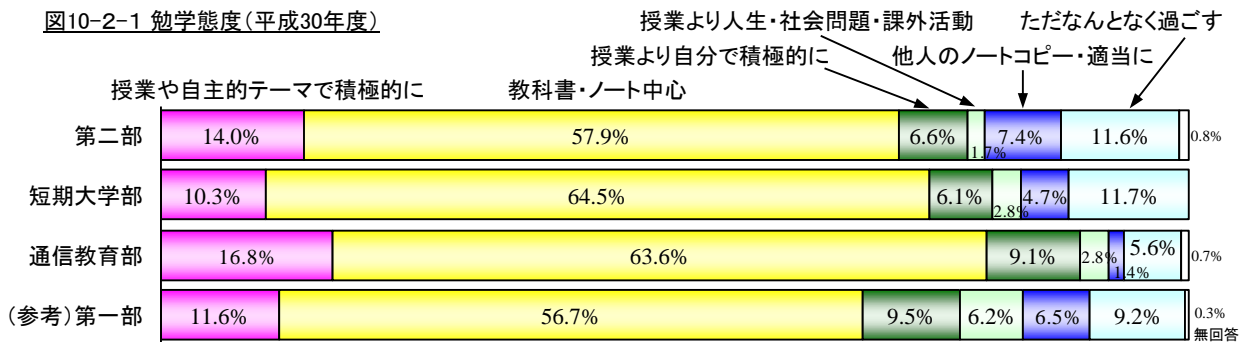
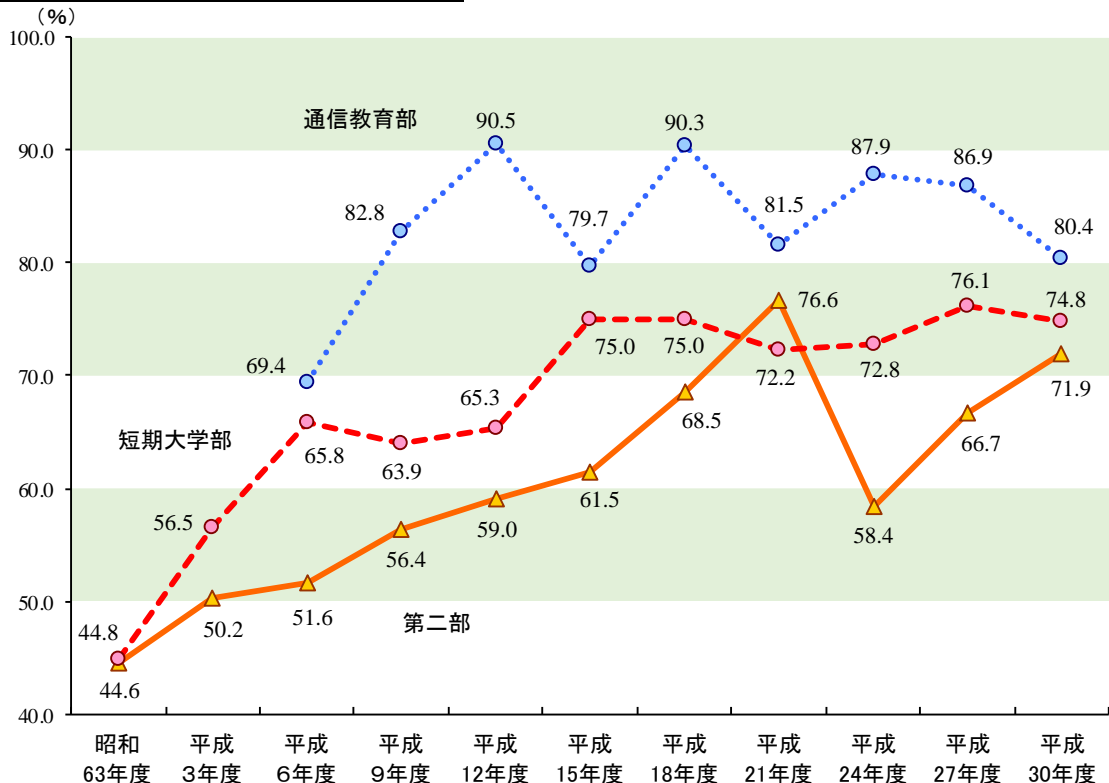


図10-2-2 比較的まじめな勉学態度の経年変化



(注) 「授業や自主的テーマで積極的に勉学」と「教科書・ノートを中心に必要単位を修得」の%の合計

3.授業態度

第二部では保健・体育，短期大学部では専門（必修）と保健・体育，通信教育部では専門必須・総合教育等4科目に熱心な学生の比率が高め。専門（必修）については，第二部・短期大学部・通信教育部とも3年前より「熱心」低下。

授業態度について熱心な学生（「熱心」と「まあまあ熱心」の合計）の比率を見ると，第二部では「保健・体育」が77.2%で最も高く，「総合教育」が64.1%で続いています。短期大学部では「専門（必修）」（68.9%）と「保健・体育」（67.5%）が高くなっています。通信教育部では「専門（必須）」と「総合教育」が78%台と高く，全般的に勉学に熱心であり，第一部の学生と比較しても，「保健・体育」以外4科目で，授業態度の熱心な学生の比率が高くなっています。

専門（必修）科目について経年変化を見ると，通信教育部は平成18年度から平成27年度までは年々熱心な学生の比率が増加，短期大学部・第二部も平成27年度に3年前より大きく増加しましたが，この3年間でいずれも下降しており，特に通信教育部においては14.1%もの大幅な減少となっています。

図10-3-1 科目別授業態度（「熱心」+「まあまあ熱心」）（平成30年度）

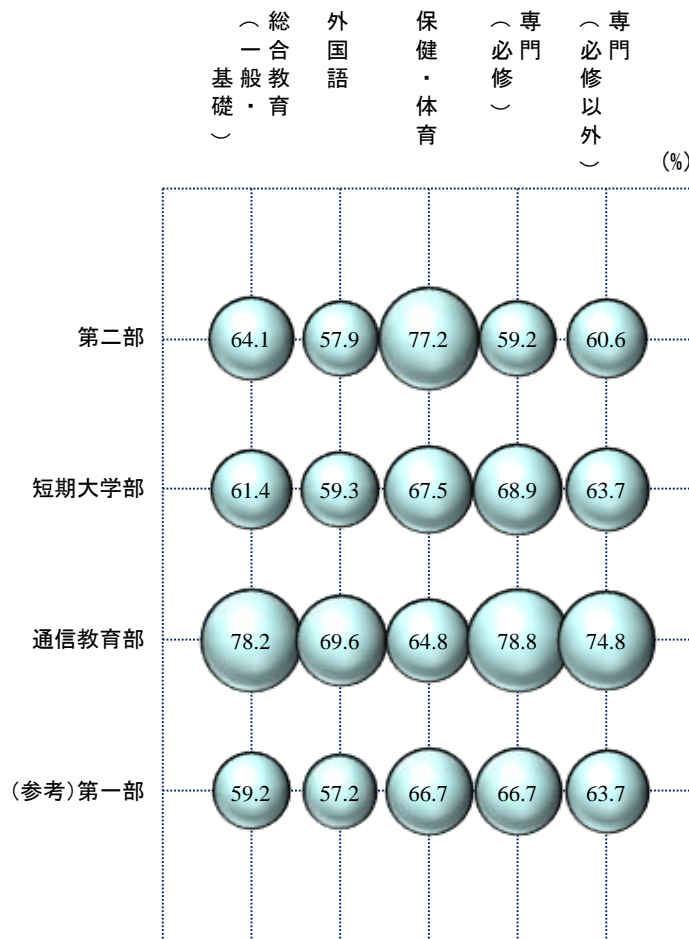
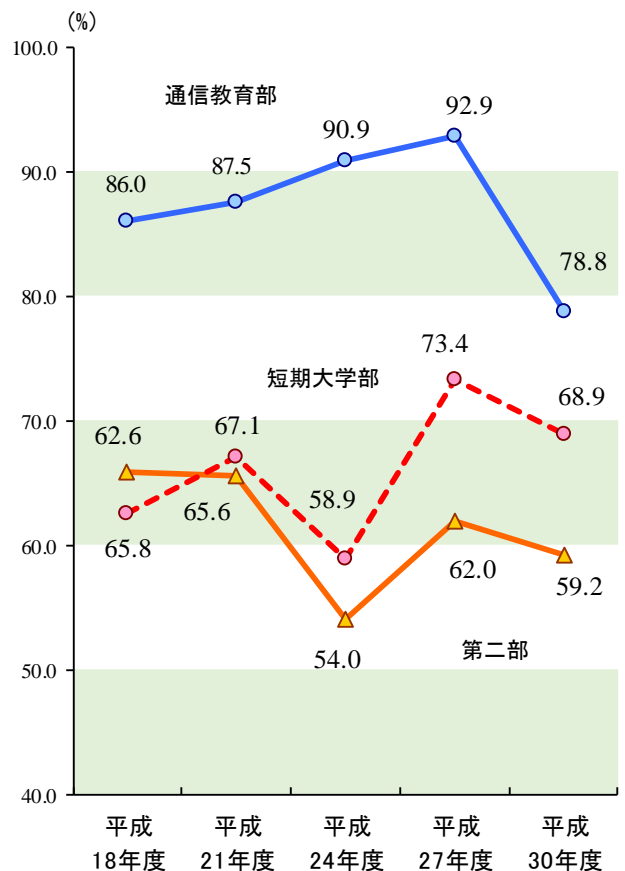


図10-3-2 科目別授業態度（「熱心」+「まあまあ熱心」）
- 専門（必修）の経年変化



(注) 「受講していないので答えられない」と無回答を母数から減じて%を算出

4.空き時間の過ごし方

通信教育部は空き時間に「1人」で過ごす学生が多い。
短期大学部では、大勢で過ごす傾向、学食・カフェテリア多用。

学内で空き時間ができた時に「1人」で過ごす学生の比率を見ると、昼間スクーリングに出席した通信教育部の学生で60.8%と高い点が目立っています。第二部では「1人」は39.7%となっており、3年前より18.4ポイント減少しています。法律学科（都内三崎町キャンパス）のみとなり女子学生比率が増加したことが影響しているのかもしれませんが。一方、短期大学部では「1人」が20.1%にとどまり、友達と「2人」以上で過ごす学生が約8割を占め高くなっています。

空き時間を過ごす場所を見ると、第二部は「図書館」（39.7%）、比較的大勢で過ごす学生が多い傾向がある短期大学部では「学生食堂・カフェテリア」（43.0%）、通信教育部では「空いた教室」（43.4%）がそれぞれトップとなっています。

図10-4-1 空き時間を過ごす人数(平成30年度)

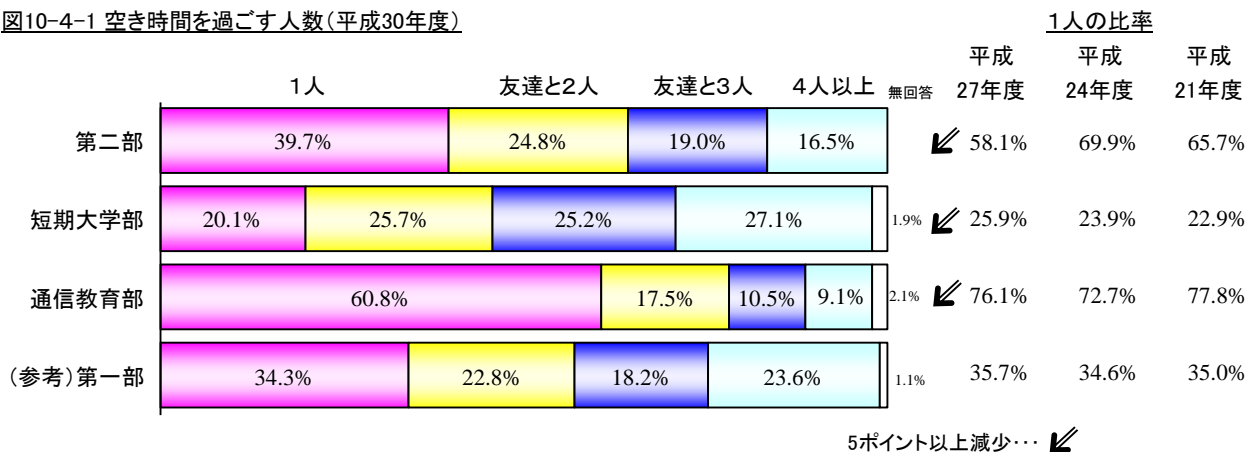
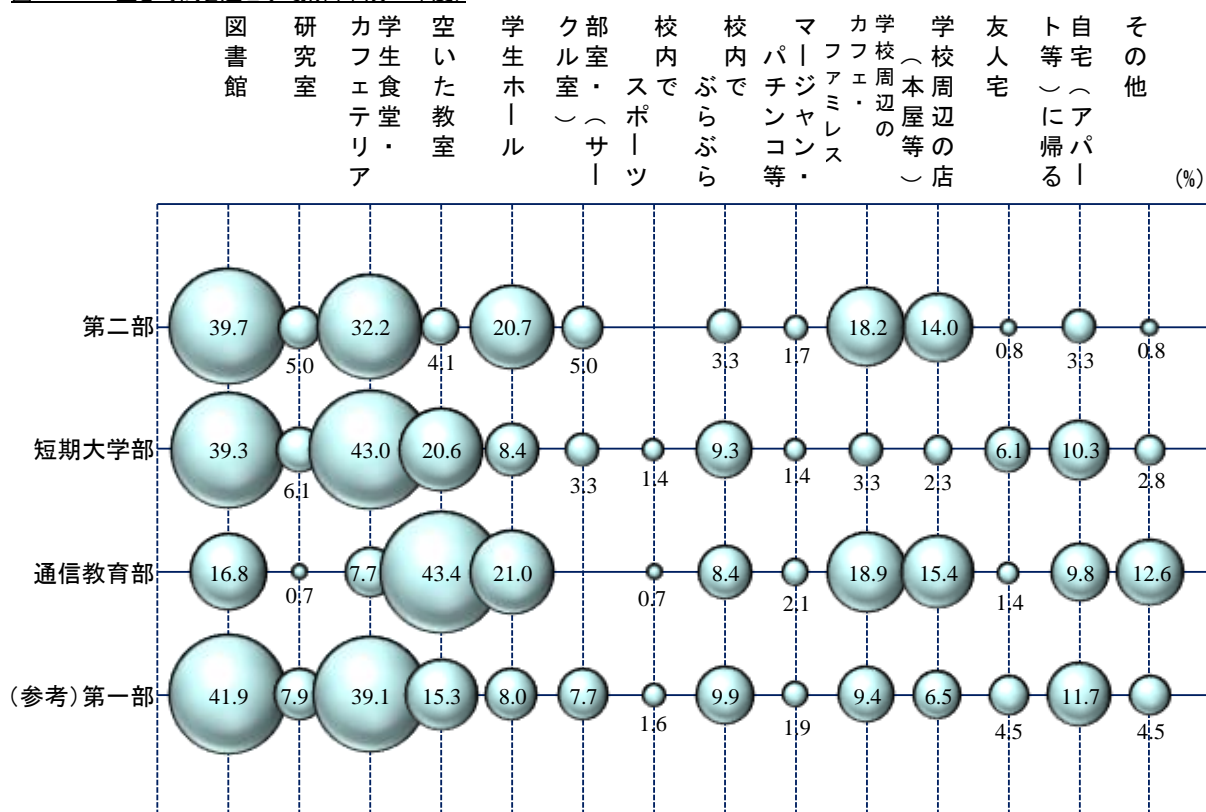


図10-4-2 空き時間を過ごす場所(平成30年度)



5. 学生生活充実感

学生生活が充実している学生の比率は、第二部と短期大学部で大幅に増加し過去最高。第二部・短期大学部・通信教育部とも、「とても充実」が過去最高

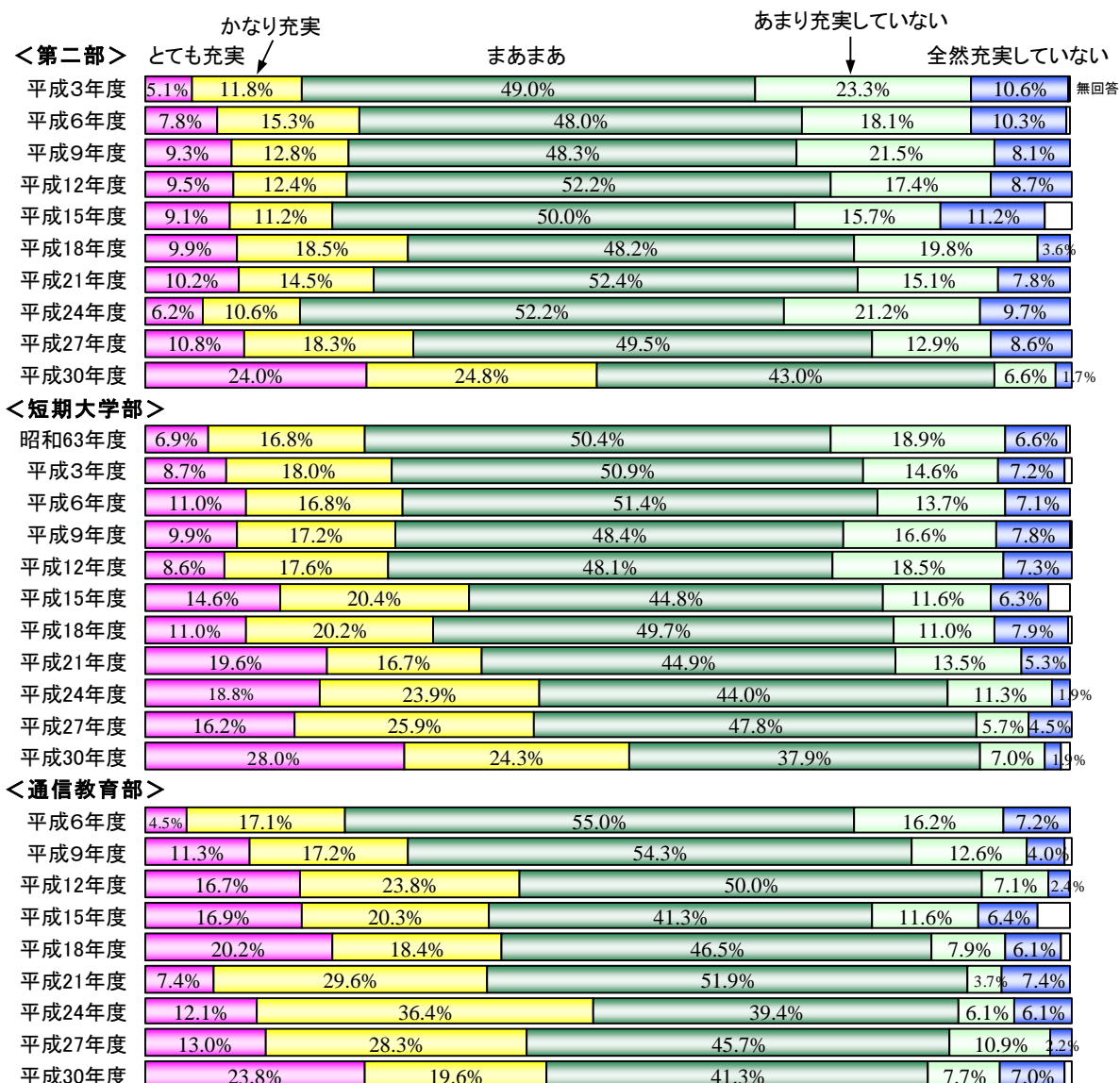
学生生活の充実感についての経年変化を見ると、第二部では12年前の平成18年度から「充実している」学生（「とても充実」と「かなり充実」の合計）の比率が減少傾向にありましたが、平成27年度から増加に転じ、平成30年度は48.8%で6年前より32.0ポイントと大幅に増加しています。

短期大学部を見ると、「充実している」学生の比率は概ね増加傾向にありましたが、平成30年度はさらに3年前より10.2ポイント増の52.3%となっています。

通信教育部では平成24年度に「充実している」学生の比率は48.5%と平成6年度以降最高でしたが、平成30年度は43.4%で2番目に高くなっています。

「充実している」のうち、「とても充実」している学生の比率を見ると、第二部、短期大学部、通信教育部ともに過去最高となっています。

図10-5 学生生活の充実感(経年変化)



6. 学生生活で重要視すること

学生生活では、「授業・ゼミ」を重要視する学生の比率が高い。
経年変化を見ると、第二部・短期大学部・通信教育部とも3年前より減少。

学生生活で重要視することを見ると、第二部・短期大学部・通信教育部とも「授業・ゼミ」が断トツでトップ（各57.0％，62.6％，69.9％），第一部と比べ「資格取得のための勉強」の比率が高め、「人間関係の構築」が低めとなっています。

「授業・ゼミ」を重視する学生の比率について平成18年度から経年変化を見ると、通信教育部と短期大学部では平成27年度に過去最高となりましたが、平成30年度はともに5ポイント以上減少しています。第二部も今回は3年前より3.2ポイント減少しています。

図10-6-1 学生生活で重要視すること(平成30年度)

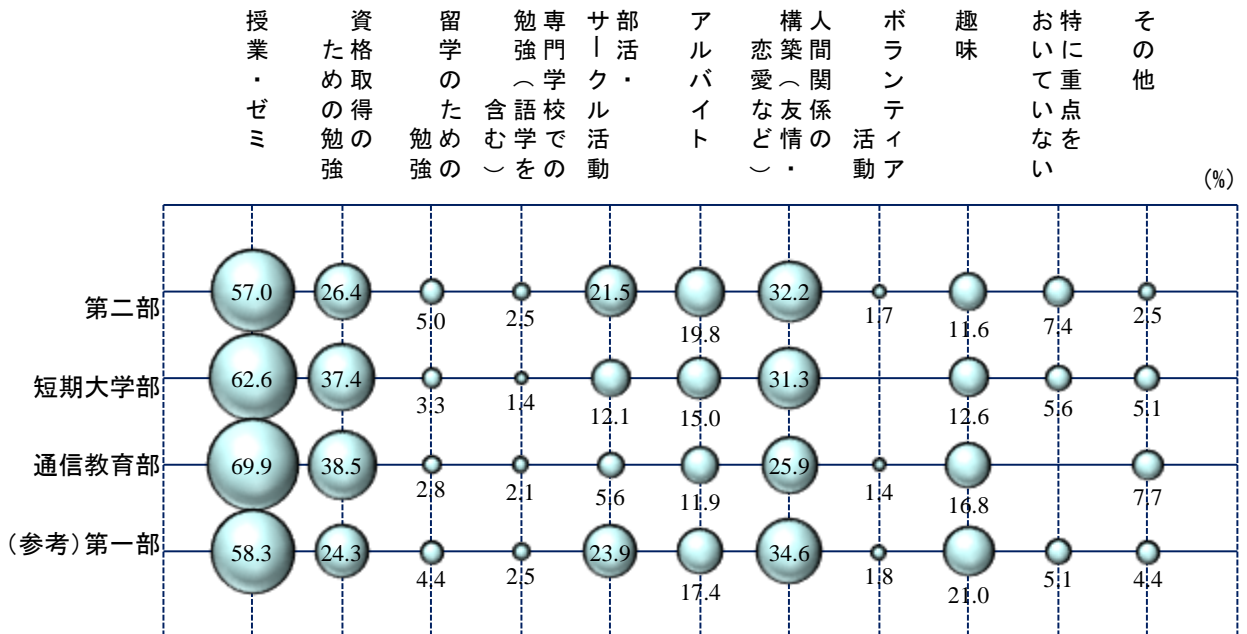
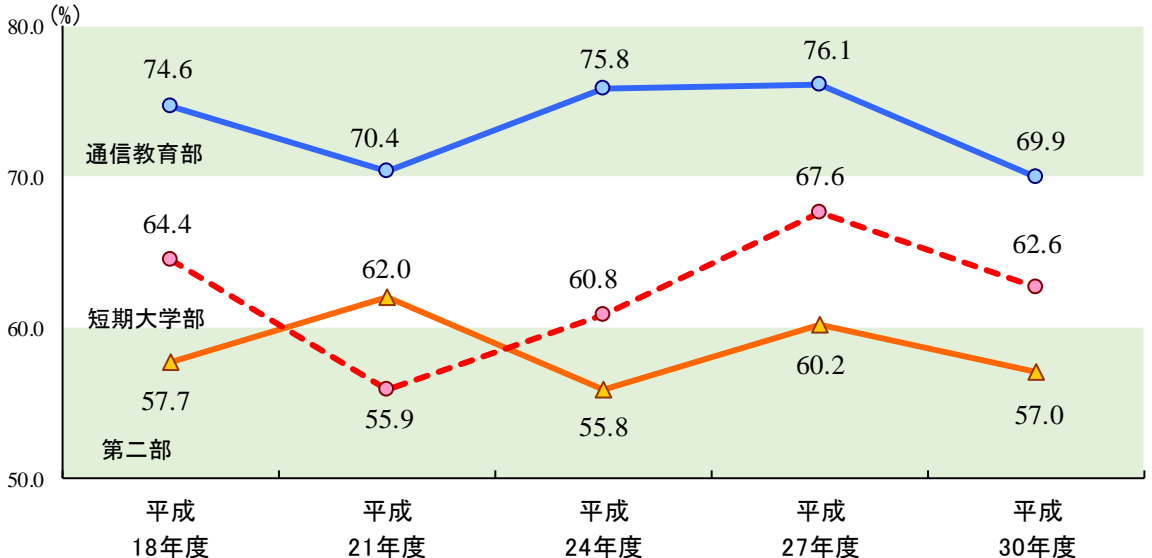


図10-6-2 学生生活で重要視すること - 「授業・ゼミ」の経年変化



7.授業及び対応・サービスについての満足層の比率

「総合教育科目」「保健・体育科目」に加え、第二部で「外国語科目」、短期大学部で「専門科目」、通信教育部で「教員の教え方」の満足度が最も高い。「他学部の授業との単位互換の機会」「学部内の他学科授業の受講機会」等は第一部より高い。

授業及び対応・サービスについての満足層（とても満足＋どちらかといえば満足）の比率を見ると、第二部・短期大学部・通信教育部とも「総合科目の授業内容」「保健・体育科目の授業内容」が約80%～90%と高くなっています。加えて、第二部では「外国語科目の授業内容」、短期大学部では「開講科目の種類」「専門科目の授業内容」、通信教育部では「教員の教え方」「専門科目の授業内容」が各80%超と、満足感の高さが目立っています。

第一部と比較すると、第二部、短期大学部、通信教育部ともに「科目登録時の選択の自由性」「他学部の授業との単位互換の機会」「学部内の他学科授業の受講機会」「他学部の教員・学生との交流」などが高くなっています。

図10-7-1 授業についての満足層の割合(平成30年度)

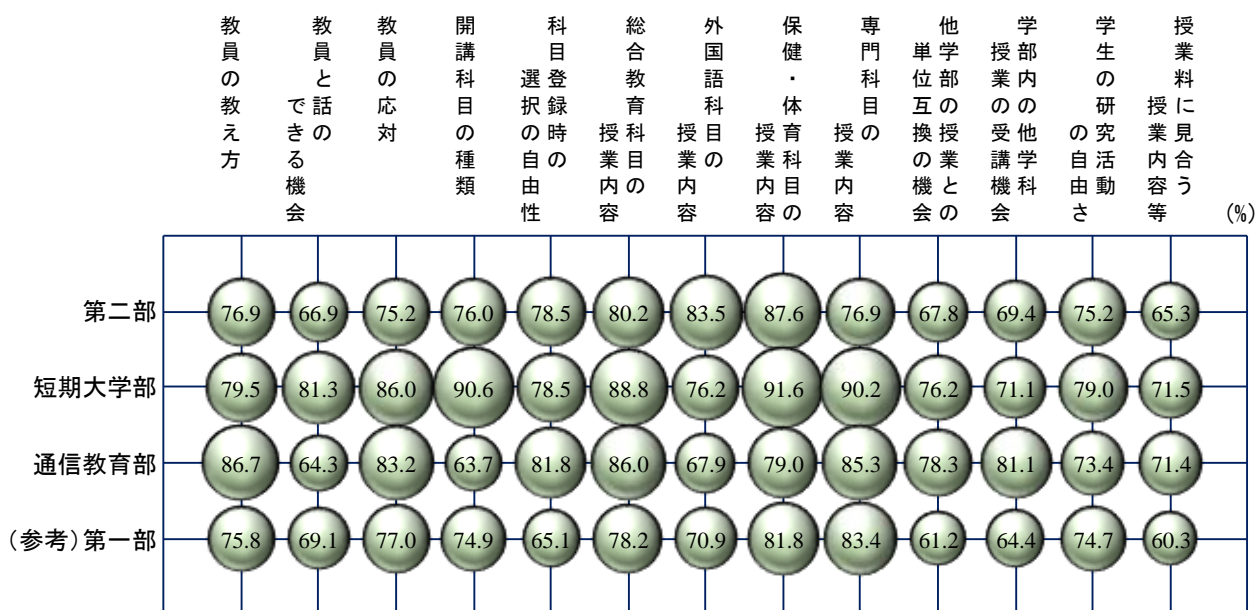
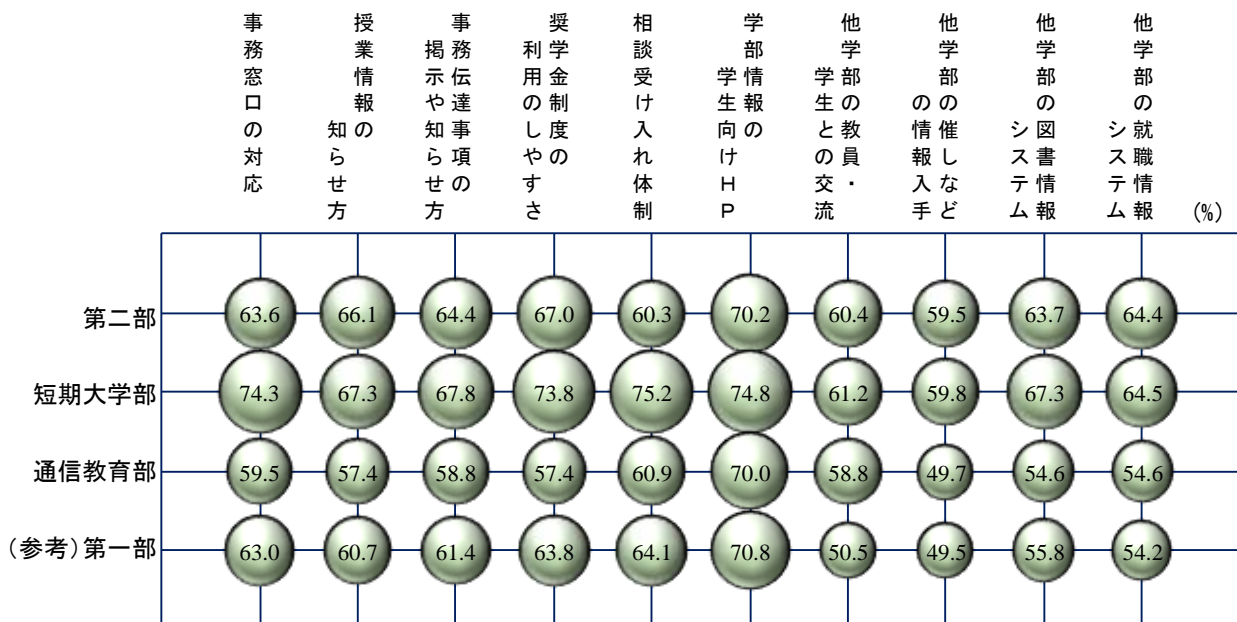


図10-7-2 対応・サービスについての満足層の割合(平成30年度)



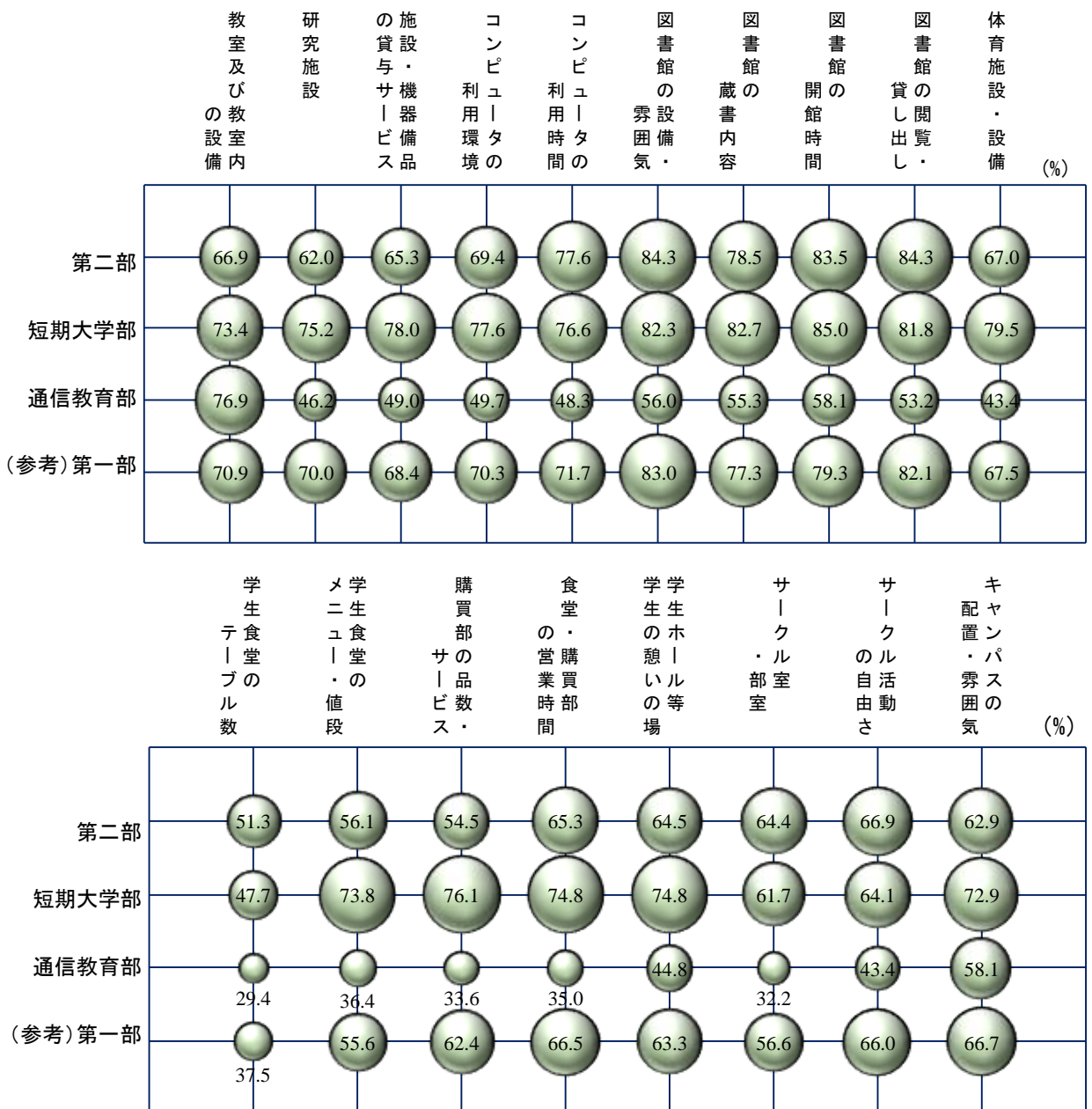
8. 施設についての満足層の比率

第二部と短期大学部で図書館の満足感が高く、
通信教育部では「教室及び教室内の施設」への満足感が高い。

施設についての満足層(とても満足+どちらかといえば満足)の比率を見ると、第二部と短期大学部は、「図書館の設備・雰囲気」「図書館の開館時間」など図書館に関する満足感の高さが目立っています。一方、「学生食堂のテーブル数」が第二部・短期大学部・通信教育部とも満足感が最も低くなっています。

第一部と比較すると、短期大学部では「学生食堂のメニュー・値段」(18.2ポイント高い)や「購買部の品数・サービス」(13.7ポイント高い)に対する満足感が高い点が目立ちます。通信教育部の学生は、施設の利用機会が少ないでしょうが、「教室及び教室内の設備」は76.9%と、6.0ポイント上回っています。

図10-8 施設についての満足層の割合(平成30年度)



9.学外の勉学活動・課外活動

短期大学の学外の勉学の比率は9.3%，第一部の1・2年生よりやや高め。
クラブ・サークル所属や行事への参加は，第二部で3年前より大きく増加。

知識・技術や資格の取得のために学外の各種学校（自動車教習所は除く）又は通信教育などを利用したことがある学生は，第一部(11.6%)に比べ通信教育部で19.6%，第二部で13.2%と高め，短期大学部でも9.3%と第一部の1・2年生（8.5%）と比べるとやや高めとなっています。

クラブ・サークルに所属している比率は，通信教育部で16.8%，短期大学部で31.3%と低く，3年前より7～8ポイント減少しています。一方，第二部では3年前より大幅に増加し（31.4ポイント増）し，63.6%と第一部の学生（55.0%）を上回っています。

行事への参加経験は通信教育部で4.2%，短期大学部で33.1%，第二部で22.0%と第一部に比べ低くなっていますが，第二部では3年前より19.1ポイント増加しています。

図10-9-1 学外の勉学の有無(平成30年度)

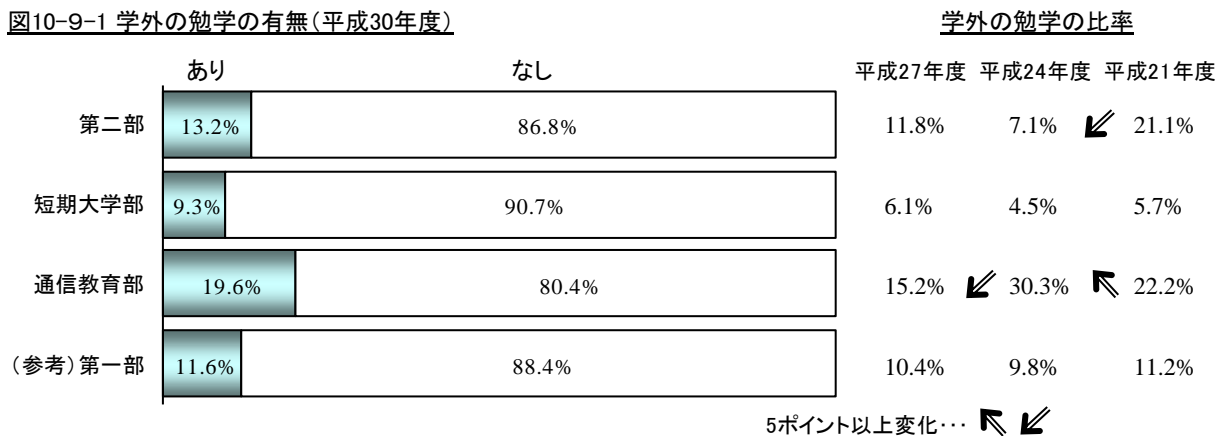


図10-9-2 クラブ・サークルへの参加の有無(平成30年度)

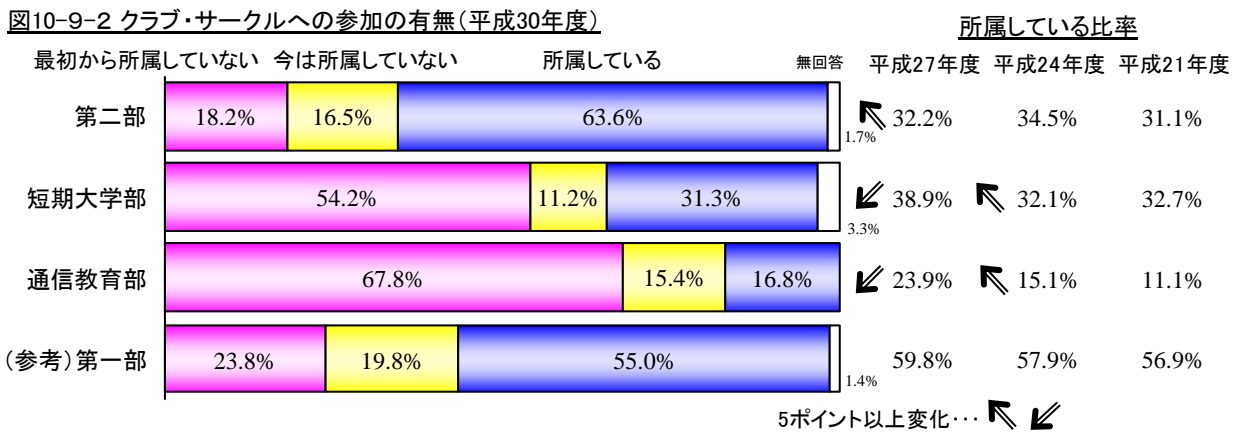
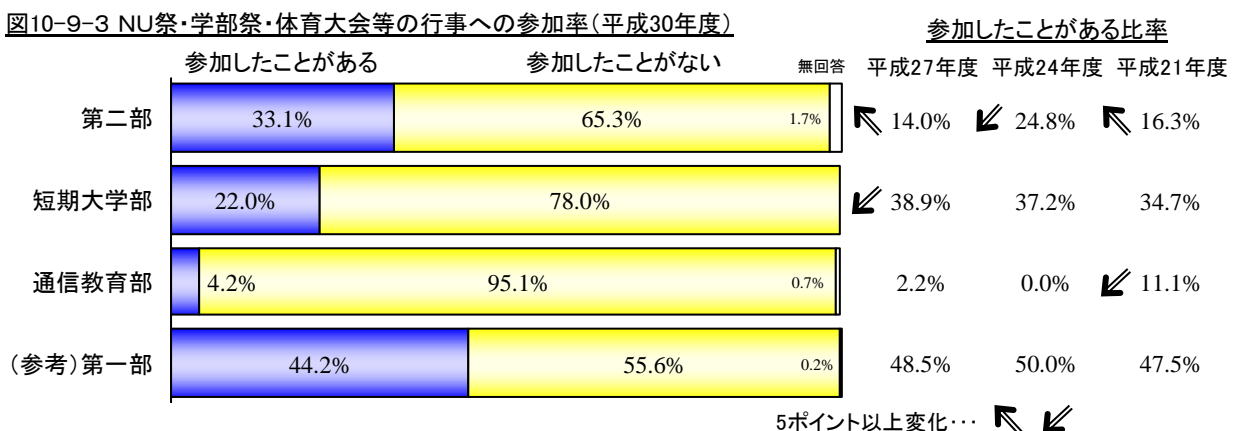


図10-9-3 NU祭・学部祭・体育大会等の行事への参加率(平成30年度)



10.不安・悩み

第二部・短期大学部・通信教育部とも不安・悩みは「勉学上」が最大、次いで「進路」。
短期大学部学生は「眠れない」が目立ち、
第二部では「不安感」、通信教育部では「不安感」「イライラ」が高め。

在学中に経験した不安・悩み・問題(トラブル)を見ると、第二部・短期大学部・通信教育部ともに「勉学上のこと」が最も高く(各54.5%、69.6%、66.4%)、「就職や将来の進路」(各33.9%、35.0%、35.0%)が続いており、第一部と同様の傾向となっています。また、通信教育部では「専攻分野」、第二部・短期大学部では「友人との関係」が3番目に高くなっています。

日頃の生活で気になることを見ると、短期大学部では「眠れないことが多い」が34.6%と最も高く(第一部学生より約10.7ポイント高)、第二部では「不安感」(28.9%)、通信教育部では「不安感」と「イライラ」(ともに26.6%)が最も高くなっています。

図10-10-1 不安・悩み・問題(トラブル)の種類(平成30年度)

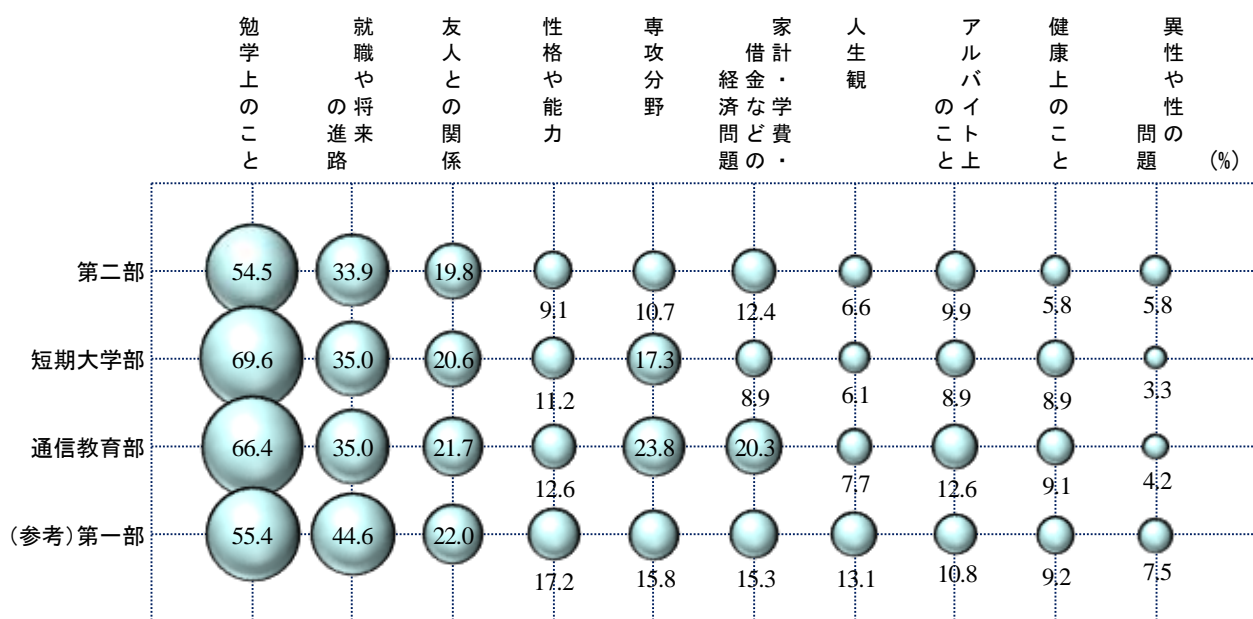
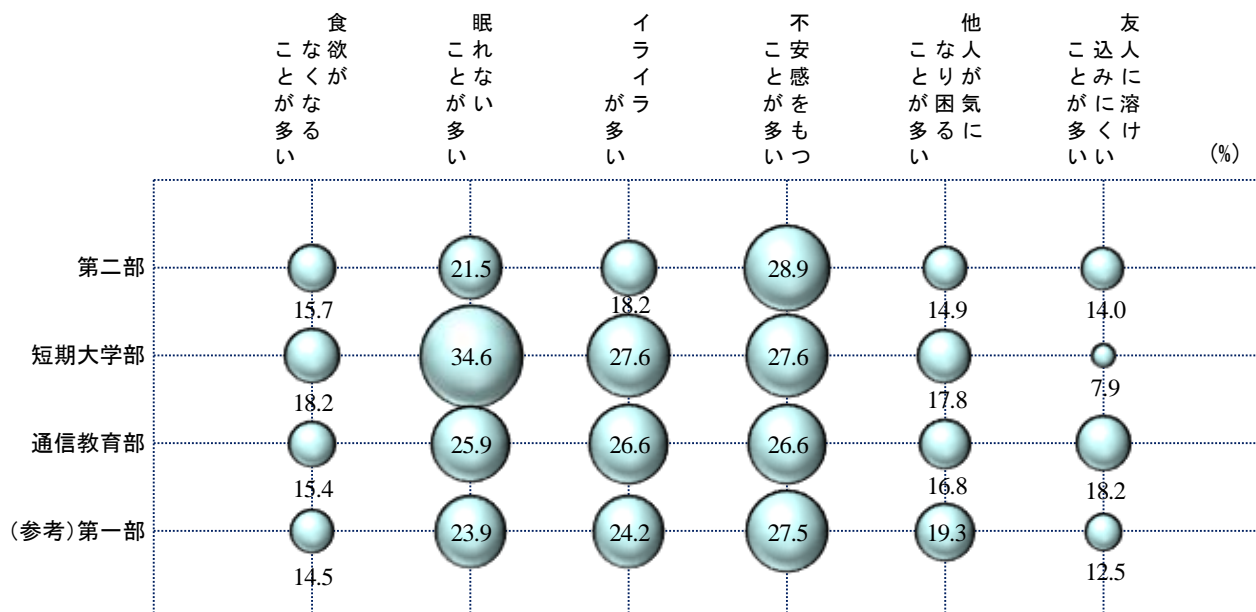


図10-10-2 日頃の生活で気になること(平成30年度)



11.アルバイト

アルバイトを「現在している」学生は、第二部で66.7%。短期大学部は60.7%で増加傾向。アルバイトの雇用形態は、第一部学生と比べ、第二部で短期や定職、通信教育部で定職が高め。

アルバイト（定職を含む）の経験を見ると、「現在している」学生は、第二部で66.9%と高く、短期大学部では60.7%、通信教育部では56.6%となっています。短期大学部は平成21年度より増加傾向が続いており、平成30年度は3年前より2.8ポイント増加しています。

現在アルバイト（定職を含む）をしている学生のうち、第二部・短期大学部・通信教育部ともに「長期アルバイト（6か月以上）」が80%前後を占めています。第一部の学生と比較すると、第二部と短期大学部の学生は「臨時（短期）」が高め（第一部学生の8.5%に対し、各12.3%と10.0%）、通信教育部の学生は「定職」が高め（同様に2.2%対7.4%）となっています。

図10-11-1 アルバイト経験の有無(平成30年度)

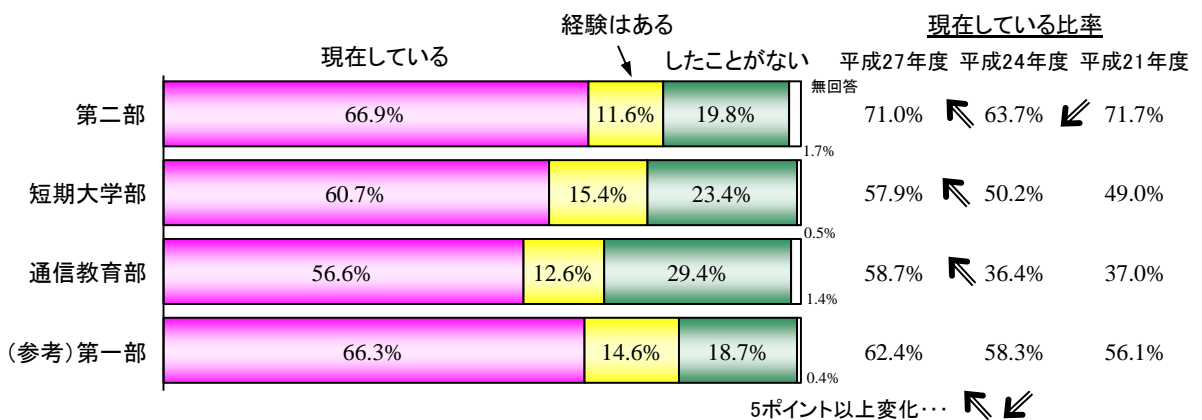
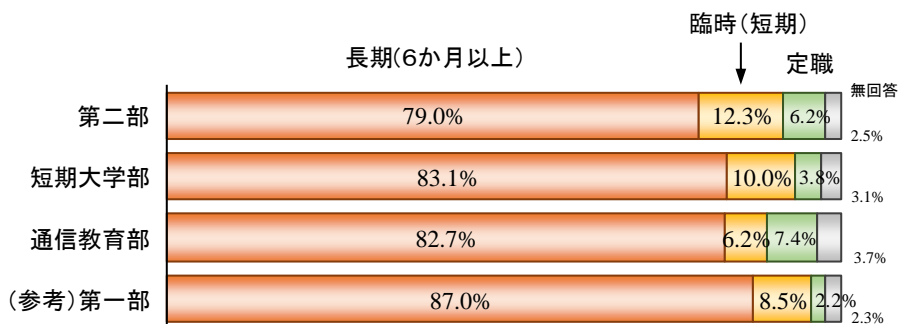


図10-11-2 アルバイトの状況(平成30年度)



12.奨学金

保護者からの支出のみで就学可能な学生は6～7割、3年前より大幅に増加。
奨学金を希望する学生の比率は第一部並み。

保護者等からの支出のみで「修学可能」な学生の比率は、第二部で7割（70.2%）、短期大学部・通信教育部で6割強（各63.1%、61.5%）となっており、短期大学部と通信教育部は第一部（64.8%）を下回っています。平成27年度と比較すると、第二部・短期大学部・通信教育部とも大幅に増加し、約7ポイント～21ポイント増となっています。

「現在の状態は、奨学金を申請する必要がない」と回答した学生は、第二部で54.5%、短期大学部で42.5%、通信教育部で62.9%であり、第二部と通信教育部で第一部（46.8%）より多くなっています。また、現在奨学金の貸与を利用している学生が、第二部で15.7%、短期大学部で14.0%、通信教育部で7.0%といずれも第一部（18.9%）より低めとなっています。返済義務のない給付の奨学金を受給希望する学生は各11.6%、12.6%、11.2%と第一部と同水準となっています。

図10-12-1 保護者等からの支出のみで修学可能か(平成30年度)

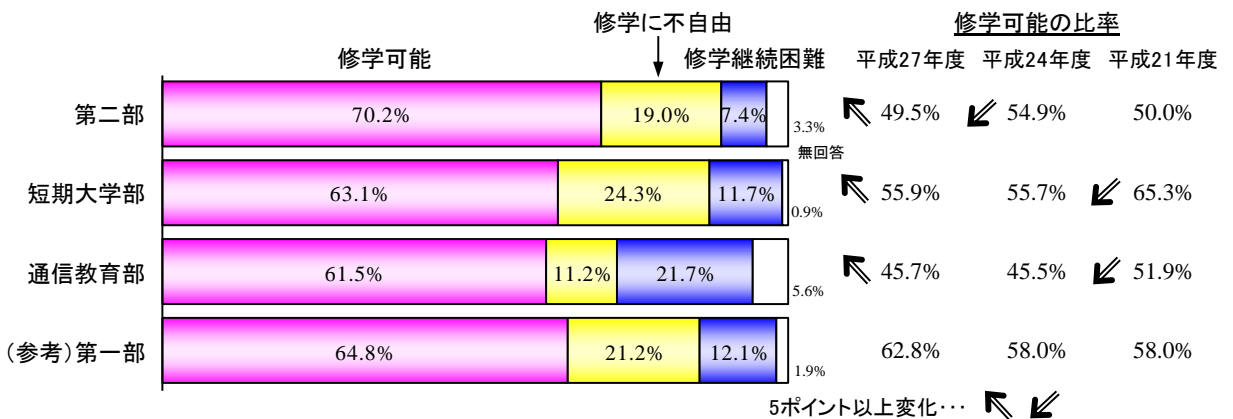
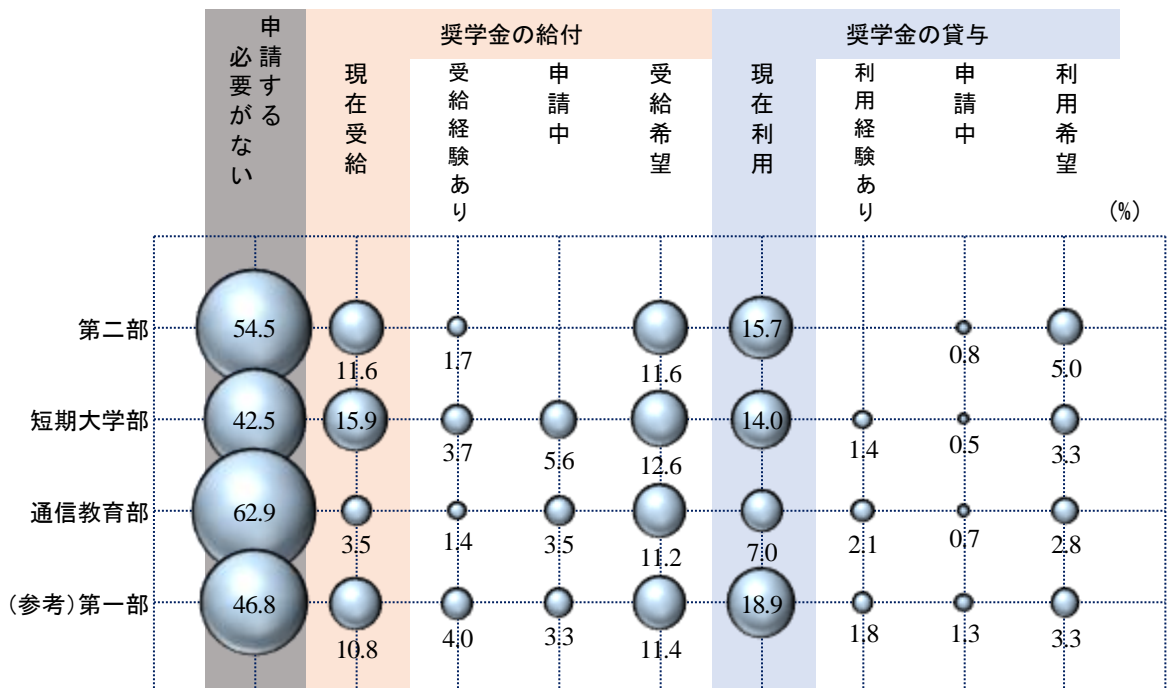


図10-12-2 奨学金の利用の有無と利用意向(平成30年度)



13. 入学から現在までの意識・行動—その1

入学決心理由はさまざま。

第二部・短期大学部・通信教育部とも、入学に満足し入学時の勉学意欲が高い学生が大半。

日本大学に入学する決心をした主な理由を第一部での高い順に並べたものが上段の図です。第二部では「総合大学だから」(26.4%)，短期大学部では「規模が大きいから」「資格がとれるから」(ともに19.6%)，通信教育部では「授業料が安いから」(37.1%)がトップとなっています。

入学直後の意識・行動を第一部での高い順に並べたものが下段の図です。第二部・短期大学部・通信教育部とも、「今の学部に入って良かった」(各76.9%，79.0%，83.2%)が最も高くなっています。さらに、「授業に出て良い成績をとりたい」と高い勉学意欲の学生の比率は第一部より5.2～7.6ポイント高く、「日大に入って良かった」は第一部より4.0～13.4ポイント高くなっています。短期大学部では「他の学部や学科に入りたかった」が51.4%と第一部より20.1ポイントも高い点が目立っています。

図10-13-1 日本大学に入学決心理由(平成30年度)

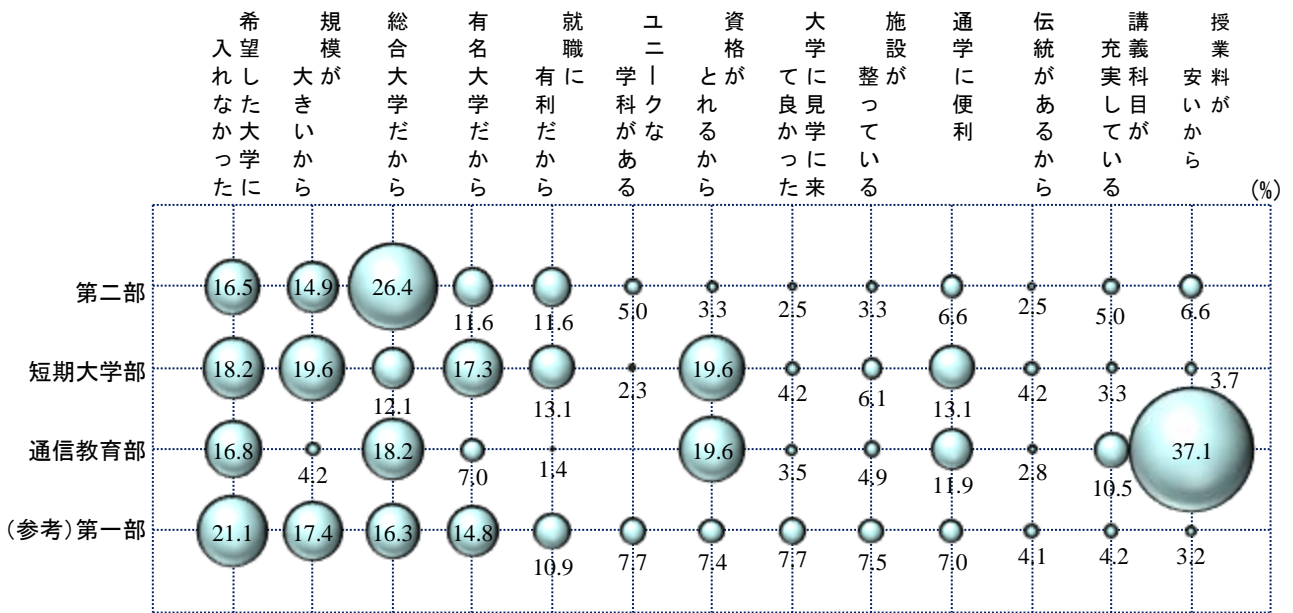
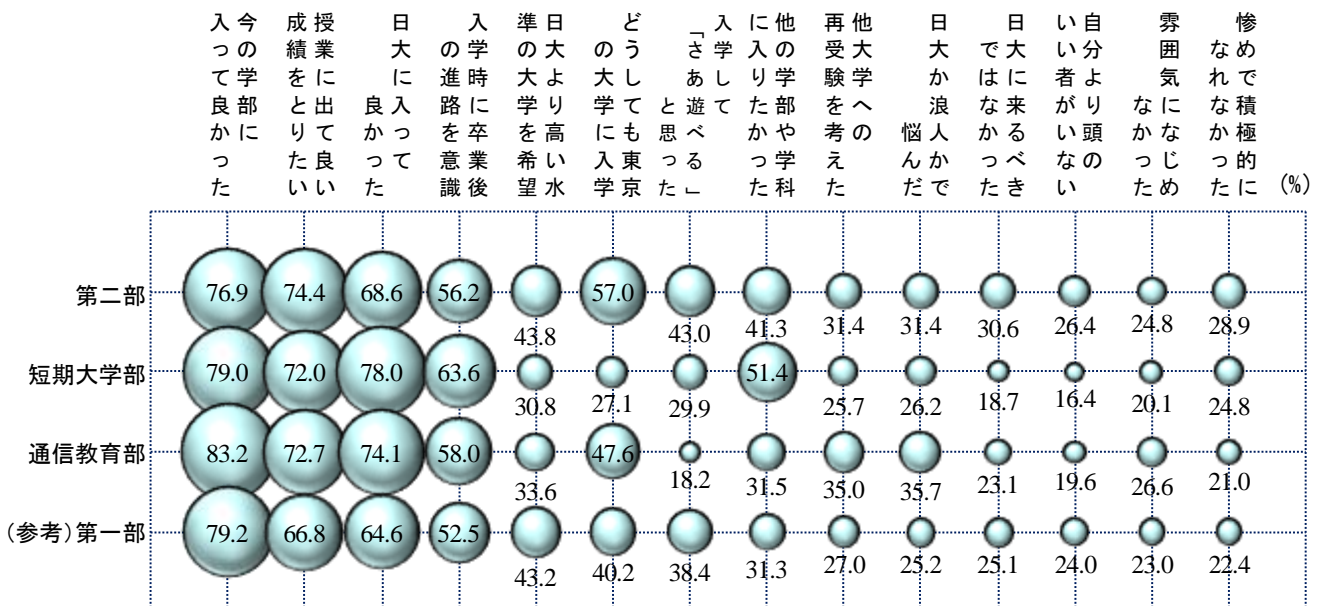


図10-13-2 入学直後の意識・行動(平成30年度)



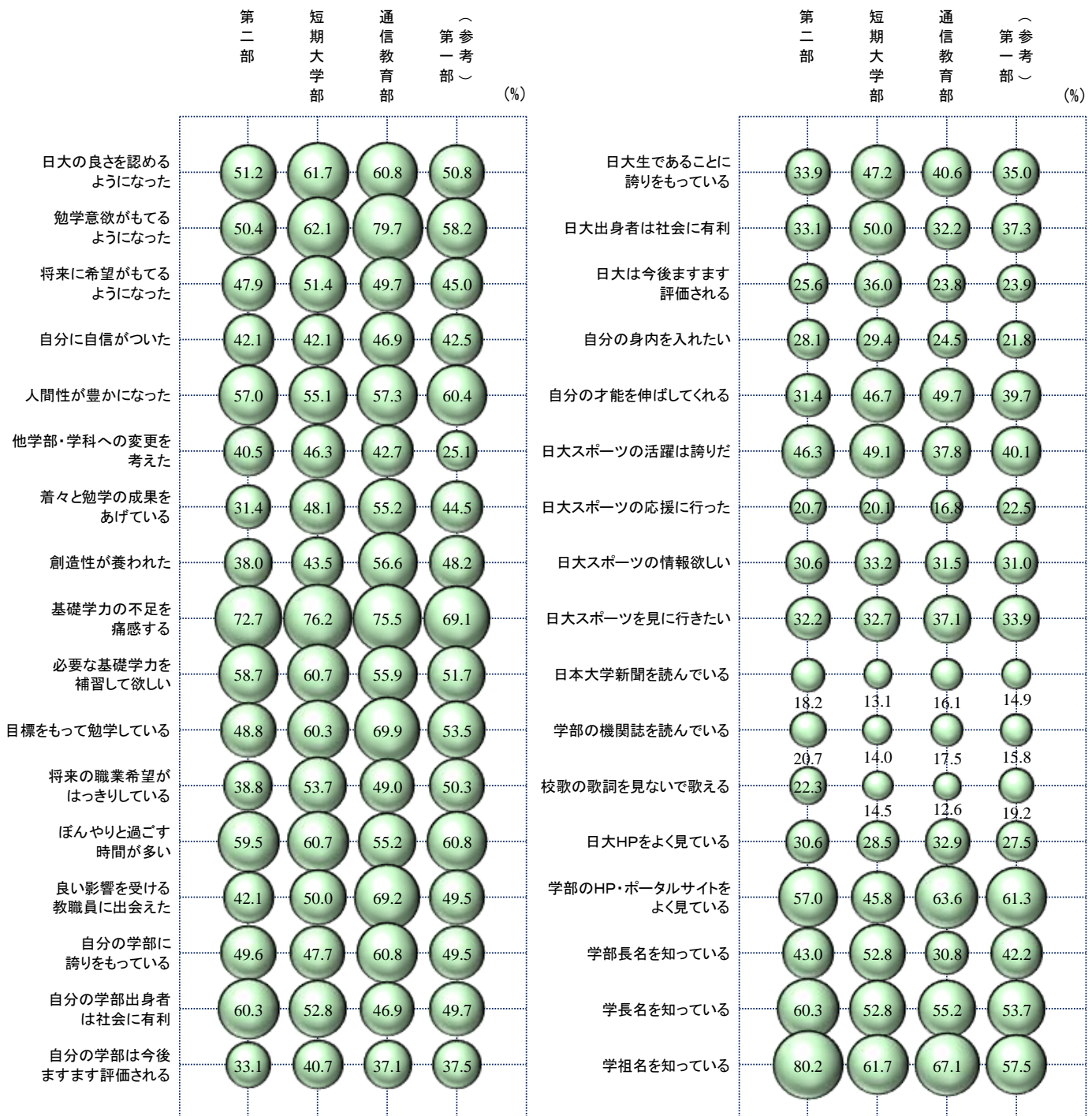
13.入学から現在までの意識・行動—その2

第二部・短期大学部・通信教育部とも「基礎学力の不足を痛感する」学生が75%前後。
通信教育部では教職員に対する評価や勉学意欲が高い。

学生の現在の意識・行動について見ると、通信教育部では「勉学意欲がもてるようになった」が79.7%、第二部では「学祖名を知っている」が80.2%で高くなっています。また、第二部・短期大学部・通信教育部ともに「基礎学力の不足を痛感する」が各72.7%、76.2%、75.5%と高くなっています。

第一部と比較すると、「他学部・学科への変更を考えた」が第二部・短期大学部・通信教育部ともに各15.4%、21.2%、17.6%上回っています。その他には、第二部で「学祖名を知っている」が第一部より22.7%高く、通信教育部では「勉学意欲が持てるようになった」「良い影響を受ける教職員に出会えた」がそれぞれ21.5%、19.7%上回っている点が目立っています。

図10-13-3 現在の意識・行動(平成30年度)



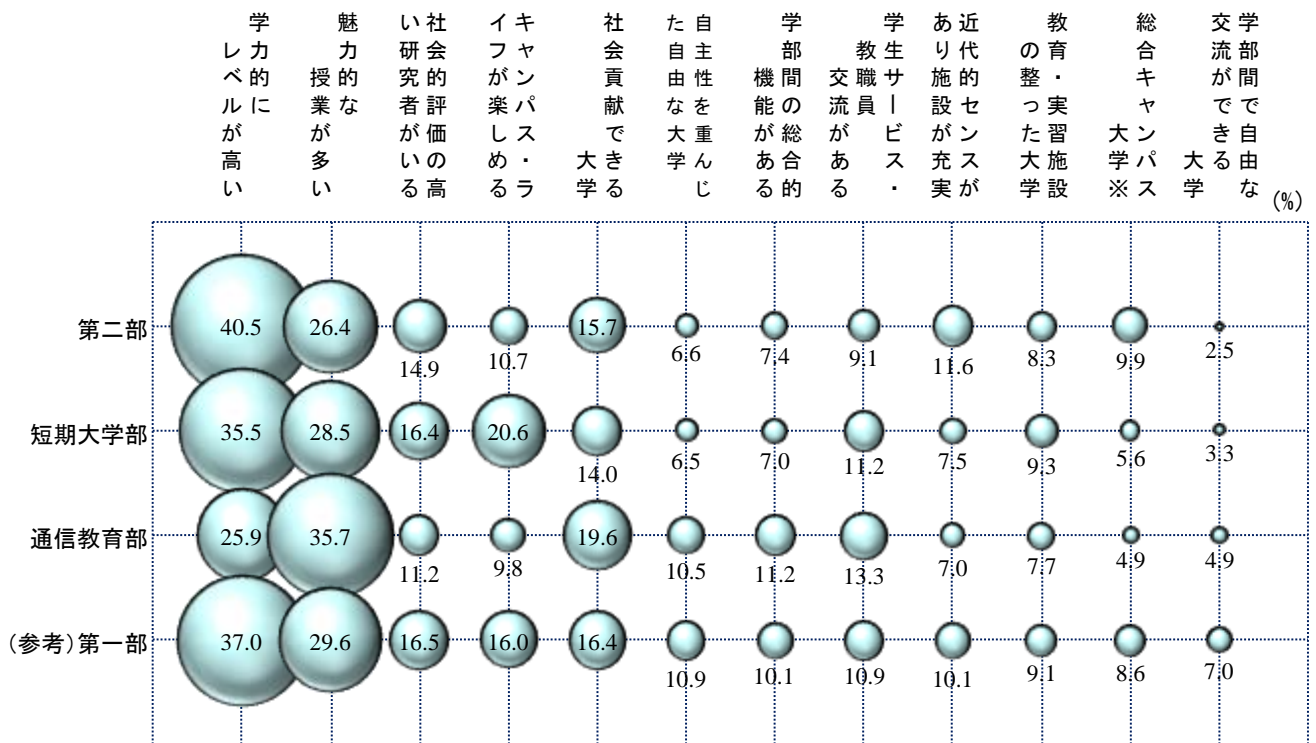
14.望まれる大学づくり

魅力ある誇れる大学にするために、第二部と短期大学部は「学力的レベルが高い」こと、通信教育部は「魅力的な授業が多い」ことを最重視。

日大を魅力ある誇れる大学にするために特に重要な政策についての学生の回答を見ると、第二部・短期大学部は「学力的にレベルが高い」（各40.5%、35.5%）、通信教育部は「魅力的な授業が多い」（35.7%）がそれぞれトップとなっています。この両項目が上位である傾向は、第一部と同様です。

さらに、短期大学部では「キャンパス・ライフが楽しめる」（20.6%）、通信教育部では「社会貢献できる大学」（19.6%）が相対的に高くなっています。

図10-15 望まれる大学づくり(平成30年度)



※「一つのキャンパスに全学部が入った大学」

15. 卒業後の進路

第二部・短期大学部・通信教育部とも、「自分の能力」が最も不安で「職業適性」情報を望む。「就職できるか」は減少。

学生の将来についての不安を見ると、第二部・短期大学部・通信教育部とも「自分の能力でやれるか」（各28.9%、32.2%、27.3%）がトップとなっています。

進路に関する知りたい情報・知識について見ると、第二部・短期大学部・通信教育部とも「自分の職業適性」（各49.6%、46.3%、34.3%）がトップとなっています。3年前と比較すると、社会情勢を反映してか「就職できるか」が第二部・短期大学部・通信教育部とも減少しています（3.8〜9.6ポイント減）。また、通信教育部で「コンピュータの知識・技術」に関する不安の減少が目立っています（19.2ポイント減）。

図10-16-1 将来についての不安(平成30年度)

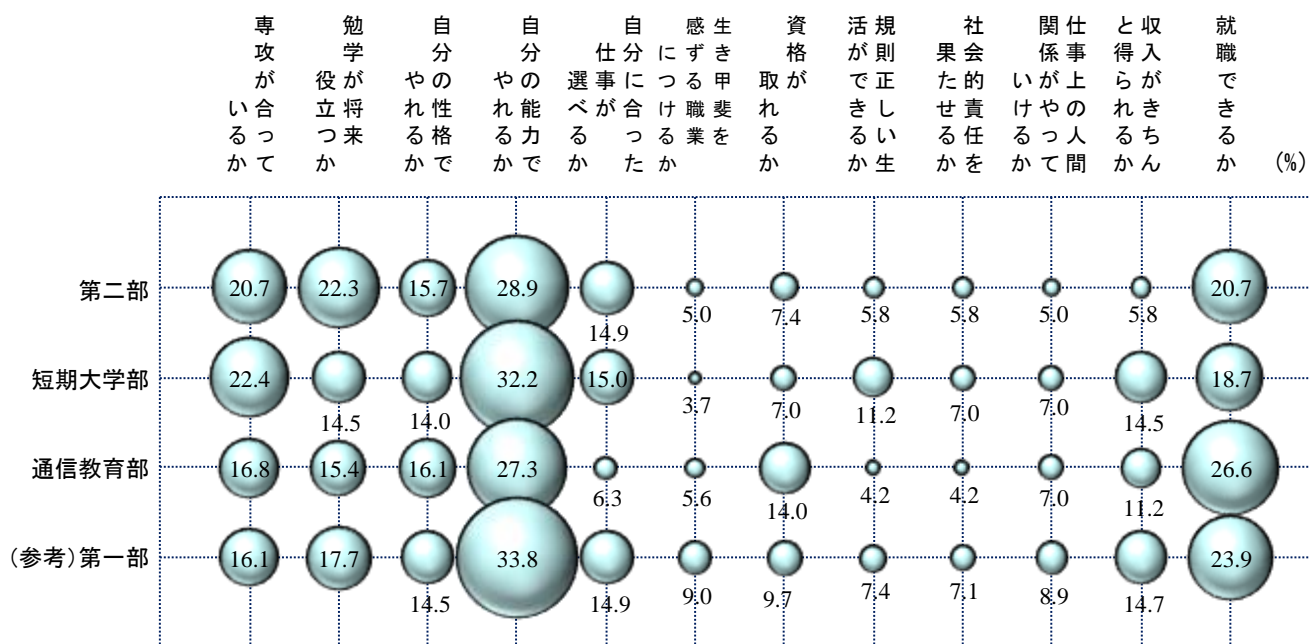


図10-16-2 進路に関する知りたい情報・知識(平成30年度)

